

トンネルサミット 報告書

今年、湊川隧道が、1901年(明治34年)に完成してから120年、一般公開の開始から20周年の節目の年に当たります。そこで、貴重な遺産である廃線トンネル等を保存・活用し、特色ある取組みでまちの活性化を担う団体をお迎えし、これからの湊川隧道の展望を探るトンネルサミットを行いました。

それぞれの団体の取組みの紹介や湊川隧道を今後どのように活用していくか、熱い意見交換が行われましたので、その概要を紹介します！

コーディネーター・パネリスト

コーディネーター

松原 永季 氏 有限会社スタジオ・カタリスト代表取締役

パネリスト

村上 真善 氏 NPO法人愛岐トンネル群保存再生委員会
藤尾 賢介 氏 明延鉱山ガイドクラブ
河野 義知 氏 愛媛県立新居浜南高等学校ユネスコ部
田口 由加子 氏 NPO法人神岡・町づくりネットワーク
前畑 温子 氏 湊川隧道保存友の会
花田 欣也 氏 総務省地域力創造アドバイザー



トンネルサミットの概要

松原永季氏のコーディネートにより、大きく3つのステップで意見交換を行い、終了後、参加者に一人3票で提案への投票をしていただきました。

- (1) パネリストの皆様へ、各団体の特色ある取組みを紹介していただきました。各団体の活動については、別で掲載しますのであわせてご覧ください。
- (2) 湊川隧道保存友の会の前畑氏からは湊川隧道の現状と課題、パネリストの皆さんからは自身の体験を元に、5つの視点で湊川隧道の活動へのヒントをいただきました。
- (3) パネリストの皆様から湊川隧道を「地域の宝」とするための提案をしていただきました。

村上 真善 氏 NPO法人愛岐トンネル群保存再生委員会

視点1 財源・資金確保

- ・トンネルを会で買い取り、「金を出せ。金がないなら智慧をだせ。智慧がないなら汗をだせ。」を三原則として活動しており、スタッフは毎週木曜と土曜日に20~30名程が参加。
- ・ベースの財源は入場料100円から保険代30円を引いた実収入の70円。
- ・50年後、100年後に残す大義を示して、スタッフ(=高齢者)の生きがいを作り、会員を増やす。
- ・委員会では、トンネル来場者に地元商店街で割引特典があるなどの連携を諮っている。連携を深化すると、トンネルのサポーターになる、商店街が賑わうなど、お互いの相乗効果も生まれる。
- ・遺産は資産、資産は運用、活用しないとイケない。

(提案)湊川隧道を地域の宝とするために

覚悟・工夫

- ・宝とするためにではなく、湊川隧道は最初から「宝」。宝である覚悟を持って活動する。

通り抜けの常態化

- ・行って帰って来るだけでなく、完遂することによって全貌が見え、全貌が見えることにより違う世界が見える。

お化け屋敷

- ・湊川隧道のように、涼しく、真っ暗なものって、夜でも作れない。これを上手く活用する。

視点2 担い手の確保・継承、心を動かすガイド

- ・情熱、心通う物が必要。それが人を育てる。
- ・ガイドは地元3人と地域外7人。高齢化した町では、地域内の人だけでは活動は成り立たない。その一方、元気な地元の人が3人いれば、活動できる。
- ・ガイドの基本的な説明事項はあるが、それ以外は自分の特徴(個性)で話しているの、7人のガイドがいたら、7人とも異なる。7回来てもらっても、十分喜んで貰える。

(提案)湊川隧道を地域の宝とするために

産業遺産を「知る」「育てる」「価値づける」

- ・産業遺産は、まさに人類の歴史である。
- ・後世に残すために、一生懸命育てることが大事だ。
- ・明延は入坑料1,200円(全国でも高いランク)いただいて、価値を付けて維持している。
- ・地元の方の熱意、情熱が人を動かす。

視点3 教育・地域愛

- ・ふるさとを愛し、貢献する立派な大人を作っていくことを目的に、学科「地域共創系列」を設置。
- ・愛着、繋がり、自己有用感、アイデンティティの確立により、こどもが変わる。
- ・学習の機会ができたことにより、ふるさと検定ができ、文化財登録がされ、条例ができるなど波及し、地域が変わった。
- ・高校時代に教育を受けた親が、次世代に繋いでいくことを意識して活動を行っている。
- ・高校生が地元企業と連携してツアーを企画。企画者も参加者も一緒に学んでいる。

(提案)湊川隧道を地域の宝とするために

つながる

- ・商店街のまち歩きなど地域と湊川隧道の繋がり。
- ・持続可能な形にしていくために繋がって広がっていく。繋がると広がっていくだろう。
- ・高校生との繋がり。2年前に生野銀山を通じて兵庫県立生野高校と繋がっている。湊川隧道の高校生とも繋がっていききたい。

視点4 観光資源化、観光

- ・お客さんに楽しんでもらうことを一番に考え、歴史を語ることを止め、エンターテイメントへ舵を切った。
- ・鉄道などのファンを呼び込むより、大多数の一般の人を対象にした方がパイが大きくなるため、鉄道の廃線跡をあえてPRすることはしていない。パイが大きくなれば、ランニングコストくらいは自分で稼げる。
- ・神岡鉄道の歴史を押しつけないからこそ、お客さんは自分たちで自由に楽しみ方を見つける。最近では、お客さんがSNSで写真や動画をどんどん拡散してくれている。

(提案) 湊川隧道を地域の宝とするために

友の会と部活の人にいろんなトンネルを見に行ってもらおう

- ・他施設を見ることで、湊川隧道のすごさを自覚する。プライドをもって活動したら良い。

ベテラン(20年続けたプライド)VS若者(若者であり、バカ者)に仲良くプロレスをしてもらう

- ・若者たちの奇抜なアイデアを、一回やってみる。(ベテランは無理だ無理だと言わない)
- ・若者は、ベテランに負けないように自分達のアイデアを20年以上繰り返す覚悟を決めて考えていく。

もっと暗く、あるいはもっと明るくしてみる

- ・もっと明るくして全部のレンガ見えるようにする。
- ・イルミネーションの先進地なので、イルミネーションをする。
- ・まち独特の雰囲気も活かしてみる。

花田 欣也 氏 総務省地域力創造アドバイザー

トンネルコーディネーターとしての視点

- ・地元の商店街と連携して、少しでもお金を落としてもらう仕組みを作る。
- ・集客は年々伸びてきているが、来すぎた時はどうするか。地元の受け入れ体制を考えておく。
- ・神戸は都会ということもあって、他のコンテンツが多い。メディアとのつながり、継続的な情報発信は重要。
- ・トンネルや歴史に興味のない人でも、感動を与えるチャンスはある。その仕掛けがあってもいい。
- ・できることはほぼしているので、どうやって続けていくか、守っていくかを考えていく。
- ・歴史ある煉瓦トンネルが閉鎖をやむなくされる中、湊川隧道の価値は全国的にも稀少、素晴らしい。

(提案) 湊川隧道を地域の宝とするために

規模は小さくても地域と連携して「継続」すること

- ・たくさん儲けるイメージではなく、20年、30年、40年、50年継続する。
- ・外の間人も巻き込む。

小学生(子ども)が楽しめる工夫(イコール親も一緒に楽しめる)

- ・例えば、ショートドラマ、寸劇、ゲームなど。
- ・地域にこんなすごいものがあるんだ！という気づきを子どもたちに与える。

今のうちに・・・「(お客様)が来すぎた時(オーバーツーリズム)」の対応を考えておくこと

- ・貴重な土木産業遺産として、来場者の安全対策などを民間と行政と一緒に考えておく。

前畑 温子 氏 湊川隧道保存友の会

パネリストの意見を聞いた感想

- ・子供から大人まで幅広い人が一緒に活動していくことが課題。
- ・高校生と隧道に来たくなるイベントについて話す機会があり、「お化け屋敷」「イルミネーション」「ゲーム」「音のなる遊び」など、パネリストの皆さんと同じ意見があって、タイムリーで驚いた。
- ・湊川隧道の地元の子供たちと他地域の子供たちの交流を目指して、取り組んで行きたい。
- ・隧道の電気を消すと、とても暗くて面白い。そういう皆の知らないことをこの機会にやってみたい。
- ・すぐできることから、少しずつやって行けたら、すごく楽しい活動に繋がって行くと思う。
- ・後世に残していくために、どんな活動をしていくのか考える時期と感じた。地域外の方にガイドに参加してもらうのが理想。

閉会挨拶 八木下 徹 神戸土木事務所長

沢山のご意見、アイデアをいただいた。エールとして受け取って、これから将来に向けて前向きにどんどん進めていきたい。

これまで訪れてくださった4万人以上の方のほとんどが応援してくれていると思っているので、今後ともよろしくお願ひします。本日は、ありがとうございました。

トンネルサミット 投票結果

トンネルサミットでは、貴重な遺産である廃線トンネル等を保存・活用し、特色ある取り組みでまちの活性化を担う団体からパネリストをお迎えし、湊川隧道を今後どのように活用していくかをテーマに熱い意見交換が行われ、パネリストから湊川隧道を「地域の宝」とするために、たくさんの提案をいただきました。

サミット終了後には、トンネルサミットの参加者に「やってもらいたい」「これは大事だ」と思う提案に投票していただきました。

投票結果

提案の説明は、「トンネルサミット 報告書」をご覧ください。

村上氏	覚悟・工夫	11票
	通り抜け常態化	26票
	オバケ屋敷	15票
藤尾氏	産業遺産を「知る」「育てる」「価値づける」	26票
河野氏	つながる	19票
田口氏	友の会と部活の人にいろんなトンネルを見に行ってもらう	6票
	もっと暗く、あるいはもっと明るくしてみる	31票
	ベテラン（20年続けたプライド）VS若者（若者であり、バカ者）に仲良くプロレスをしてもらおう。	15票
花田氏	規模は小さくても地域と連携して「継続」すること	13票
	小学生（こども）が楽しめる工夫（イコール親も一緒に楽しめる） 例えば、ショートドラマ、寸劇、ゲームなど。	11票
	今のうちに…「（お客様が）来すぎたとき（オーバーツーリズム）」 の対応を考えておくこと	10票

「もっと暗く、あるいはもっと明るくしてみる」の投票が31票で1位という結果になりました。サミットの中でも、「暗い」というキーワードでたくさんの意見が発表され、夜でも暗くない現代、暗闇に皆さん関心があるようです。

今回いただきました沢山の意見を参考に、今後も湊川隧道が地域の宝となるために、皆様に愛される湊川隧道を保存・活用して参ります。